

3) 精神発達遅滞児の早期診断

前川喜平 慈恵医大
横井茂夫 慈恵医大
副田敦裕 慈恵医大

I 主訴よりの疑い

1) 乳児期

- ①運動発達の遅れ（首がすわらない、お坐りしない etc.）。
- ②周囲に対する関心、反応が鈍い。
物を見ない（視力障害）、あやしても笑わない。呼んでも振り向かない（聴力障害）。ガラガラを持たせてもすぐ落としてしまう。手を伸ばして物をつかまない。

2) 幼児期

ことばが遅い。

II 診察法

1. 周囲に対する関心及び反応のテスト

- 1) 追視テスト
- 2) 音に対する反応
- 3) 物をつかむ
 - ①ガラガラを握らせる。
 - ②一辺 3 cm 立ち体の積木をつかませる。
 - ③顔に布をかける

2. 運動発達のおくれと反射の成熟の遅れのみかた。

1) 身体の立ち直り反射

- 3 か月以前
- 4 か月以後

99

2) 坐位の反応

	♀	♂	♀	♂
視性立ち直り反射	陽性	陽性	陽性	陽性
坐位の平衡反応	—	弱陽性	陽性	陽性
横のパラシュート反応	—	—	±	陽性

3) パラシュート反応

8～9 カ月頃より出現。運動発達よりみると、つかまらせると立つ、つかまり立ち、這いができる頃に出現する。

4) Hopping と立位の発達

- つかまり立ち(—)
- つたえ歩き(±)
- 歩行 左右前(+) 後(—)
- 上手に歩行 前後左右(+)

III 判定

DQ (motor development
mental development

重症度

- 境界 75 以上
- 軽度 75 ～ 50 以上
- 中等度 50 ～ 25 以上
- 重度 25 以下